

<国際言語文化学部国際日本文化学科> (認定課程: 中一種免(国語))

①各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	1. 言語コミュニケーションの基礎知識や方法について習得し、「伝え合う力」とは何かについて実践的に学習する。 2. 日本近現代文学を中心に文学を多角的に読み解くとともに、文学作品の研究方法について知り、教材研究への活用法を学ぶ。 3. 国語学の概略について、音韻、文字、文法、語彙、国語政策、方言、系統論の観点から、学習する。 4. 教育現場で求められる情報技術の基礎となる、コンピュータシステムの基本的な操作から、「情報モラル」の理解、データの分析と考察まで実践的に身につける。
	後期	1. 発声やスピーチなど、口頭表現に関する基礎技法を実践的に学習する。 2. 日本語による文章作成のための基本的な語彙力、表現力、構成力について、実践的に学ぶ。 3. 能、歌舞伎、神社、茶道、華道、和服、サブカルチャーなど、幅広い視点から日本文化について学習する。 4. 教育の概念、思想、歴史、制度、内容、方法等について、基礎的・体系的に理解を深める。
2年次	前期	1. 教職の意義や教員の役割および連携・分担のあり方について理解を深め、専門職として求められる資質や能力について考える。 2. 教育活動において重要な、心理学的知見について、学習心理学、発達心理学、社会心理学の視点から理解を深める。 3. 学校教育現場における教育相談の重要性を認識し、その理論や現状、方法について実践的に学ぶ。 4. 学習指導要領について理解を深めながら、国語科教育に求められる視点や考え方、知識について実践的に学習する。 5. 硬筆書写の演習を行いつつ、手紙文や履歴書の書き方など、社会人として習得しておくべき文書作成法について学ぶ。 6. 漢文を読み、訓読や書き下し文、訓点について学びながら、漢字及び漢語やその時代背景にも理解を深める。
	後期	1. 教育の社会的・制度的・経営的事項に関する理論や概念について学び、学校と地域の連携や学校安全の必要性について理解を深める。 2. 特別支援教育に関する理念や制度について学び、特別の支援を必要とする生徒を理解し支援する方法について学ぶ。 3. 日本古典文学の歴史や概略について学び、古文音読の方法や古語や古典文法についても理解を深める。 4. 日本近代文学の作品を読み、表現技巧や作品構成について理解し、さまざまな文学理論や読解の方法があることを学ぶ。 5. 教室で国語科の授業を行うにあたり、どのような姿勢や方法が求められるかについて、実践的に学ぶ。
3年次	前期	1. 教育課程の意義や役割、変遷を理解し、編成・評価の方法について学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントの重要性を認識する。 2. 特別活動および総合的な学習の時間の意義や目標、具体的内容・指導法について実践的に学ぶ。 3. 日本近代詩の歴史を概観し、詩的表現の意義や多様性について学び、文学について理解を深める。 4. 漢字の起源、日本における漢字使用の歴史、漢語の種類など、文化としての漢字について、理解を深める。 5. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施することで、国語科授業の方法を実践的に習得する。 6. 教育方法の理論について学び、基礎的な教育技術や情報通信技術を活用した教育の理論・方法について実践的に習得する。
	後期	1. 日本古典文学の歴史や概略について学び、古文音読の方法や古語や古典文法についても理解を深める。 2. 学校文法の概略について学ぶとともに、日本語教育の中で用いる文法教育についても理解を深める。 3. 現代の社会的文化的背景を踏まえつつ、児童・生徒の読書とメディアをめぐる状況や問題点について考察・理解する。 4. 生徒指導および進路指導の意義や原理、方法について学び、指導上の課題への連携・対応のあり方について理解を深める。 5. 教育実習に向けて授業実践力を高めるとともに、国語科教員に求められる国語力について、漢字能力、古典文法、漢文読解の3つの観点で見きわめを行う。
4年次	前期	1. 教育実習の意義、目的、内容、方法、基本的心得、注意点などについて、具体的に習得する。 2. 教育現場で教諭に求められる業務内容、服務規律、遵守すべき法令等について理解する。 3. 教育実習実施にあたり、必要な知識・技術について、校種別に模擬授業を行い、最終確認を行う。 4. 特別支援教育や子どもの人権等について、特別講師を招いて理解を深める。 5. 学校現場に出かけ、教育実習を行い、教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深める。
	後期	1. 教育実習での学び、体験、反省をもとに、実習前とどのように認識が変化したか考え、教職への理解を深める。 2. 教員としての自己の長所と短所を分析し、資質向上のための努力目標を知る。 3. 教員としての使命感や責任感、教育的愛情について、具体的事例により討議し、実践的指導力を体得する。 4. 教育現場で直面する生徒指導上の諸問題について、ロールプレイングやグループ討議を通して考え、指導力の向上を目指す。 5. 教員としての実践的指導力の適格性について、最終的に確認を行う。

※ 認定を受けている課程ごとに記載。

<国際言語文化学部国際日本文化学科> (認定課程: 高一種免(国語))

①各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	1. 言語コミュニケーションの基礎知識や方法について習得し、「伝え合う力」とは何かについて実践的に学習する。 2. 日本近現代文学を中心に文学を多角的に読み解くとともに、文学作品の研究手法について知り、教材研究への活用法を学ぶ。 3. 国語学の概略について、音韻、文字、文法、語彙、国語政策、方言、系統論の観点から、学習する。 4. 教育現場で求められる情報技術の基礎となる、コンピュータシステムの基本的な操作から、「情報モラル」の理解、データの分析と考察まで実践的に身につける。
	後期	1. 発声やスピーチなど、口頭表現に関する基礎技法を実践的に学習する。 2. 日本語による文章作成のための基本的な語彙力、表現力、構成力について、実践的に学ぶ。 3. 能、歌舞伎、神社、茶道、華道、和服、サブカルチャーなど、幅広い視点から日本文化について学習する。 4. 教育の概念、思想、歴史、制度、内容、方法等について、基礎的・体系的に理解を深める。
2年次	前期	1. 教職の意義や教員の役割および連携・分担のあり方について理解を深め、専門職として求められる資質や能力について考える。 2. 教育活動において重要な、心理学的知見について、学習心理学、発達心理学、社会心理学の視点から理解を深める。 3. 学校教育現場における教育相談の重要性を認識し、その理論や現状、方法について実践的に学ぶ。 4. 学習指導要領について理解を深めながら、国語科教育に求められる視点や考え方、知識について実践的に学習する。 5. 硬筆書写の演習を行いつつ、手紙文や履歴書の書き方など、社会人として習得しておくべき文書作成法について学ぶ。 6. 漢文を読み、訓読や書き下し文、訓点について学びながら、漢字及び漢語やその時代背景にも理解を深める。
	後期	1. 教育の社会的・制度的・経営的事項に関する理論や概念について学び、学校と地域の連携や学校安全の必要性について理解を深める。 2. 特別支援教育に関する理念や制度について学び、特別の支援を必要とする生徒を理解し支援する方法について学ぶ。 3. 日本古典文学の歴史や概略について学び、古文音読の方法や古語や古典文法についても理解を深める。 4. 日本近代文学の作品を読み、表現技巧や作品構成について理解し、さまざまな文学理論や読解の方法があることを学ぶ。 5. 教室で国語科の授業を行うにあたり、どのような姿勢や方法が求められるかについて、実践的に学ぶ。
3年次	前期	1. 教育課程の意義や役割、変遷を理解し、編成・評価の方法について学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントの重要性を認識する。 2. 特別活動および総合的な学習の時間の意義や目標、具体的内容・指導法について実践的に学ぶ。 3. 日本近代詩の歴史を概観し、詩的表現の意義や多様性について学び、文学について理解を深める。 4. 漢字の起源、日本における漢字使用の歴史、漢語の種類など、文化としての漢字について、理解を深める。 5. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施することで、国語科授業の方法を実践的に習得する。 6. 教育方法の理論について学び、基礎的な教育技術や情報通信技術を活用した教育の理論・方法について実践的に習得する。
	後期	1. 日本古典文学の歴史や概略について学び、古文音読の方法や古語や古典文法についても理解を深める。 2. 学校文法の概略について学ぶとともに、日本語教育の中で用いる文法教育についても理解を深める。 3. 現代の社会的文化的背景を踏まえつつ、児童・生徒の読書とメディアをめぐる状況や問題点について考察・理解する。 4. 生徒指導および進路指導の意義や原理、方法について学び、指導上の課題への連携・対応のあり方について理解を深める。 5. 教育実習に向けて授業実践力を高めるとともに、国語科教員に求められる国語力について、漢字能力、古典文法、漢文読解の3つの観点で見きわめを行う。
4年次	前期	1. 教育実習の意義、目的、内容、方法、基本的心得、注意点などについて、具体的に習得する。 2. 教育現場で教諭に求められる業務内容、服務規律、遵守すべき法令等について理解する。 3. 教育実習実施にあたり、必要な知識・技術について、校種別に模擬授業を行い、最終確認を行う。 4. 特別支援教育や子どもの人権等について、特別講師を招いて理解を深める。 5. 学校現場に出かけ、教育実習を行い、教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深める。
	後期	1. 教育実習での学び、体験、反省をもとに、実習前とどのように認識が変化したか考え、教職への理解を深める。 2. 教員としての自己の長所と短所を分析し、資質向上のための努力目標を知る。 3. 教員としての使命感や責任感、教育的愛情について、具体的事例により討議し、実践的指導力を体得する。 4. 教育現場で直面する生徒指導上の諸問題について、ロールプレイングやグループ討議を通して考え、指導力の向上を目指す。 5. 教員としての実践的指導力の適格性について、最終的に確認を行う。

※ 認定を受けている課程ごとに記載。

(国際言語文化学部国際日本文化学科)

②具体的な履修カリキュラム

教科及び教職に関する科目（教科及び教科の指導法に関する科目に限る。）（中学校・高等学校教諭一種免許状（国語））

科目	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		最低修得 単位数 (本学の最 低単位数)	左の科目区分等に対応する本学開設授業科目					備考		
	科目区 分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	配当学年 開講期	単位数		担当教員			
						中	高				
教科及 び教職 に関する科目	教科及 び教科 の指導 法に関する科目	教科に 関する 専門的 事項	国語学（音声言語及び文章表現 に関するものを含む。）	○国語学概論	1・2前	2	2	堀 勝博	音声言語を含む。		
				日本語の朗読	2・3・4前	2	2	平野 美保			
				○日本語コミュニケーションⅠ	1前	2	2	河野 有時	文章表現を含む。		
				○日本語コミュニケーションⅡ	1後	2	2	平野 美保	文章表現を含む。		
		国文学（国文学史を含む。）		○日本語コミュニケーションⅢ	2前	2	2	堀 勝博	文章表現を含む。		
				日本語文法	2・3・4後	2	2	堀 勝博			
				日本語研究	2・3・4後	2	2	立和名 房子			
				識字活動と子どもの権利	2・3・4後	2	2	岩崎 れい			
		漢文学		○国文学概論	1・2前	2	2	河野 有時	国文学史を含む。		
				○日本古典文学講読	2・3・4後	2	2	堀 勝博			
教科及 び教職 に関する科目	教科及 び教科 の指導 法に関する科目	書道（書写を中心とする。）	中28(28) 高24(24)	日本近代文学講読	2・3・4後	2	2	河野 有時			
				日本文学特講	2・3・4後	2	2	河野 有時			
				子どもの読書とメディア	2・3・4後	2	2	岩崎 れい			
				言語文化概論	1・2前	2	2	朱 鳳	漢字文化史		
		漢文学特講		2・3・4後	2	2	朱 鳳				
		○漢文学入門		1・2前	2	2	朱 鳳				
		○書写研究		2・3・4前	2	—	安岡 素子				
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目									
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			○国語科教育法Ⅰ	2前	2	2	河野 有時		
					○国語科教育法Ⅱ	2後	2	2	河野 有時		
					○国語科教育法Ⅲ	3前	2	2	堀 勝博		
○国語科教育法Ⅳ	3後				2	2	堀 勝博				

○印は免許状取得の必修科目。△印は免許状取得の選択必修科目。

(中等教職課程共通)
教科及び教職に関する科目(教科及び教科の指導法に関する科目を除く。)

科目	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		最低修得単位数 (本学の最低単位数)	左の科目区分等に対応する本学開設授業科目						備考
	科目区分	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	配当学年 開講期	単位数		共通 開設	担当教員	
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10(12)	○教育原論 教育史	1・2前 2後	2 2	2 2	初等 初等	田中 裕喜	1科目選択必修
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		○教職論	2前	2	2	初等	河佐 英俊	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育社会学 教育経営論	2前 2後	2 2	2 2	初等 初等	原 清治 河佐 英俊	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○教育心理学	2前	2	2	初等	高井 直美	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○特別支援教育	2後	2	2	初等	太田 容次	
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		○教育課程論	2・3前	2	2	初等	田中 裕喜	
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳の理論及び指導法	中10(10) 高8(8)	○道徳の指導法	2・3前	2	—	
	総合的な学習の時間の指導法	○特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3後	2		2	初等	河佐 英俊 大西 慎也		
	特別活動の指導法	△教育の方法及び技術 △教育方法学 教育評価	3後 3前	2 1		2 1	初等 初等	東郷 多津 神月 紀輔	△から1科目 選択必修	
	教育の方法及び技術		3前	2		2	初等	神月 紀輔		
	情報通信技術を活用した教育の方法及び技術	○ICT活用教育	3前	1		1	初等	神月 紀輔	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。	
	生徒指導の理論及び方法	○生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3前	2		2		網谷 綾香		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	○教育相談の理論及び方法	2・3前	2		2	初等	網谷 綾香		
	教育実践に関する科目	教育実習	中5(5) 高3(3)	○中等教育実習事前事後指導	4通	1	1		河野 有時 東郷 多津 加藤 佐千子 喜多 容子 神月 紀輔 田中 裕喜 江川 正一 太田 容次 河野 有時 東郷 多津 加藤 佐千子 喜多 容子	中学校必修
		○中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ		4通 4通	2 2	2 2				
		学校体験活動 教職実践演習		2(2)	○教職実践演習	4後		2	初等	
	大学が独自に設定する科目		中4(2) 高12(10)	道徳の指導法 介護等体験 暮らしと電気・エネルギー 環境教育 国際理解教育	2・3前 2・3通 1 3 4	— 1 2 — —	2 1 2 2 2	初等	河佐 英俊 矢島 雅子 藪 哲郎 佐藤 真太郎 渡辺 智美	高等学校免許のみ 中学校免許必修
				(大学が独自に設定する科目以外の科目の余剰単位)						最低修得単位数（中55単位、高47単位）を超えて修得した単位数

○印は免許状取得の必修科目。△印は免許状取得の選択必修科目。

④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（全学共通）

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得 単位数	左の科目区分に対応する本学開設授業科目			備考
		授業科目	単位数		
日本国憲法	2	○憲法と人権	2	横山 真紀	
体育	2	体育講義	1	高田 佳孝	2単位選択必修
		体育実技	1	高田 佳孝	
		健康スポーツ演習	2		
外国語コミュニケーション	2	日常の英会話	1	Isobel Hook Nikan Sadehvandi	2単位選択必修
		旅行の英会話	1	Charles Paul Dan King	
		留学の英会話	1	Charles Paul	
		おもてなしの英会話	1	Thomas Nishikawa Dan King	
		ビジネス英会話	1	Nikan Sadehvandi Thomas Nishikawa	
		英語実践（4技能）Ⅰ	1	Charles Paul Kelada	
		英語実践（4技能）Ⅱ	1	Isobel Hook	
		Communication Skills Ⅰ	1	Nikan Sadehvandi	
		Communication Skills Ⅱ	1	Dan King	
		Public Speaking	2	Thomas Nishikawa	
		Persuasive Communication	2	Thomas Nishikawa	
		Argumentation and Debate	2	Lyle De Souza Isobel Hook	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目	2	AIとデータサイエンス入門	2	北村 美穂子 金光 安芸子	
情報機器の操作	2	情報演習Ⅰa	1	吉田 智子	2単位選択必修
		情報演習Ⅰb	1	大谷 俊郎	
		情報演習Ⅱ	1	吉田 智子	
		情報処理	2	大谷 俊郎 伊藤 泰子 伊藤 泰子	

○印は免許状取得の必修科目。△印は免許状取得の選択必修科目。

5. 免許状取得までの各年次の主なスケジュール

【英語英文学科・国際日本文化学科・生活環境学科・社会情報学環】

年次	主要スケジュール（詳細は掲示板等で確認すること）		教職に関する科目等の標準的な履修年次
1	履修登録時	1年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。	憲法と人権、体育講義、体育実技、健康スポーツ演習、情報演習Ⅰa、情報演習Ⅰb、英語実践（4技能）Ⅰ、英語実践（4技能）Ⅱ 教育原理（家庭科） 暮らしと電気・エネルギー
	12月	教職課程説明会	
	3月	教職課程オリエンテーション 履修カルテ入力 教育実習予備調査 履修指導	
2	履修登録時	2年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。 取得を希望する免許状の「資格申請」をする（UNIPA）。	教育史、教育経営論、教職論、教育心理学、教育社会学、特別支援教育、情報演習Ⅱ、情報処理 英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ 家庭科教育法Ⅰ、家庭科教育法Ⅱ 日常の英会話、旅行の英会話、留学の英会話、おもてなしの英会話、ビジネス英会話、AIとデータサイエンス入門 （英語科） Persuasive Communication、 Public Speaking、Argumentation and Debate
	10月頃	介護等体験説明会	
	11月頃	教育実習報告会	
	3月	教職課程オリエンテーション 履修カルテ入力 教育実習依頼指導(1) 誓約書提出・実習依頼校申請 教職課程特別講座（履修指導を含む） 介護等体験事前指導開始	
3	履修登録時	3年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。 教育実習要件を確認し、前提科目を履修する。 取得を希望する免許状の「資格申請」を確認する（UNIPA）。	教育課程論、道徳の指導法、特別活動・総合的な学習の時間の指導法、生徒指導・進路指導の理論及び方法、教育相談の理論及び方法 英語科教育法Ⅲ、英語科教育法Ⅳ 国語科教育法Ⅲ、国語科教育法Ⅳ 家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ 情報科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅱ 教育評価、ICT活用教育 教育の方法及び技術、教育方法学、介護等体験 （英語科） Communication SkillsⅠ、Communication SkillsⅡ （情報科） 環境教育
	4月頃	教育実習依頼指導(2)	
	5～2月頃	介護等体験7日間	
	11月頃	教育実習報告会	
	12月頃	介護等体験事後指導 司書教諭講習修了証書一括申請手続（該当者のみ）	
	3月	教職課程オリエンテーション 履修カルテ入力 教職課程特別講座（履修指導を含む）	
4	履修登録時	4年次の配当科目で履修可能な科目を履修する。 必要単位の不足はないか綿密に検討し直す。 取得を希望する免許状の「資格申請」を確認する（UNIPA）。	中等教育実習事前事後指導、中等教育実習Ⅰ、中等教育実習Ⅱ （情報科） 国際理解教育 教職実践演習
	4月	教育実習事前指導開始 教育実習の確定登録 教育実習費の納入	
	4～9月	実習校への通学時間などを調べ、実習校と打合せて実習の準備をする。	
	5～10月	教育実習 教育実習終了後履修カルテ入力	
	11月頃	教育実習事後指導 教育実習報告会	
	12月頃	免許状授与一括申請手続 司書教諭講習修了証書一括申請手続（該当者のみ）	
	3月頃	教員採用状況調査	
	3月	卒業式後、免許状交付	

教員採用試験のスケジュールについては、各都道府県・政令指定都市及び私立学校により異なるので、各自で確認すること。